

新年のごあいさつ



新年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、あの未曾有の大地震から4年弱が経過いたしました。当時、被災者の住まいの確保は大きな課題で、ピーク時には803戸、2,093人の方々が建設型仮設住宅やみなし仮設住宅での生活を余儀なくされました。

しかし、現在は、仮設住宅にお住まいの方々の恒久的な住居として、町内各地に計100戸の災害公営住宅の整備を進めており、令和2年2月末には最後となります「上高野団地」が完成予定など、震災からの復旧・復興の階段をまた一段昇ることができたと実感しております。

また、こうした取組みを進める中で、改めて認識させられたのは、地域コミュニティの重要性です。甚大な被害の中で地域における共助の力がなければ、今回の震災を乗り越えることはできなかったと強く感じております。そのた

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、ご健勝にて、令和2年の新春を迎えられたことと心からお喜び申し上げます。また、日頃から町議会に対してご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

私は、令和元年5月の第2回定例会におきまして、議員各位のご推挙をいただき、町議会議長に就任いたしました。新年を迎えるにあたり、改めてその責任の重さを感じるとともに、町の更なる発展のために引き続き努力してまいりたいと決意を新たにしております。

さて、平成28年熊本地震及び6月の梅雨前線豪雨災害から早いもので、4年を迎えようとしております。町では、仮設住宅が順次解体され、災害公営住宅の建設や町道、農地などの災害復旧工事も概ね今年度中に完了の見込みであり、日々復興が進んでいることを実感しております。今後、町民の皆様をはじめ、関係各位のご協力のもと、一日も早く被災者の皆様の生活再建

め、住居の移転や災害公営住宅への入居等により住み慣れた地域から離れて暮らすことを強いられ、地域コミュニティを再構築していくことが急務であると感じております。

こうした震災での教訓を踏まえつつ、御船町の将来を見据えた持続可能なまちづくりを進めていくために、第6期御船町総合計画を策定しました。これは、令和2年度を初年度とした8年間のまちづくりの指針で、「人をつなぐ」「魅力をつなぐ」「未来へつなぐ」の3つの「つなぐ」を基本理念に、みんながわくわくする御船町を標榜しております。『住み続けたい御船町』、『人を育む御船町』、『活力のある御船町』、『人が集う御船町』の4本の柱によるまちづくりを展開していくこととしております。

令和という新たな元号を迎え、社会情勢や町を取り巻く環境も目まぐるしく変化しておりますが、御船町もこの流れをしっかりと捉え、対応していかなければなりません。

が果たされますよう願っております。

昨年を振り返りますと、全国各地で台風や大雨による甚大な被害が発生しました。

昨年に限らず、近年多発する深刻な自然災害は、御船町民においても決して他人ごとでなく、この対策は町の喫緊の課題であると思います。議会としても、地域防災計画や国土強靱化地域計画などをもとに、しっかりとした防災・減災対策が図られるよう、町当局に求めていると思います。町民の皆様におかれましては、「自分の命は自分で守る」という意識で日ごろの備えをお願いいたします。

いよいよ、復興のシンボルとして御船インター東側に誘致した大型商業施設「コストコ」が、令和3年春の開業に向けて本格的な準備に入られます。

これを町活性化の好機ととらえ、人の流れをどのように町内へもつてくるか、恐竜博物館や吉無田高原をいかに有効活用するか、この一年、町民の皆様の声聞きながらしっかりと議論していかなければならないと思っております。

こうした中で、昨年6月、会員制大型デイスカウントストアであるコストコの立地協定を締結することができました。令和3年春には、当御船町で南九州初となる開業が決まり、県内外から多くの来客を見込んでおります。この流れを震災からの復興の起爆剤とすることはもちろん、雇用や賑わいの創出につなげていきたいと考えております。今後ともご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

令和2年 元旦

ればならないと思っております。

私たち議会は、昨年の議員選挙により、新体制となったばかりですが、引き続き議会基本条例の理念を継承し、二元代表制の確立を目指し取り組んでいきます。町民の皆様には、議会傍聴など積極的にご参加いただき、たくさんのご意見をお寄せいただきますよう心からお願い申し上げます。

令和2年 元旦

「コストコ」誘致で
人の流れを町内へ！

御船町議会議長
池田 浩二 議会

未来へつなぐまちづくり
わくわくする御船町へ

御船町長
藤木 正幸 行政